

保育環境論(19)

—— どうんこ保育 と どうんこ絵本の役割 ——

塩川 寿平 (大地教育研究所)

1. 研究の目的

本研究は、子どものどうんこ遊び、また、子どもの生活を通して、子どもの文化を理解することにある。ややもすると科学的研究の名をかりて、子どもを人間としてではなく、一つの主体として多数の要素に分解して研究し、人間としての全体像を見失い、子どもの文化や人格をわすれがちである。

ここでは、文化という概念や、一人一人の人間としての人格という概念を持ちこて、どうんこ保育を位置づけ、大切な役割を考察していく。

2. 研究の方法

どうんこ保育の臨床観察と、どうんこ絵本の解釈を中心に進める。臨床観察は、野中保育園(静岡県富士宮市野中東町300)で行った。参考とした絵本は右頁の別記のとおりである。

3. どうんこ保育について

どうんこ保育は、今日、自由保育の普及とともに広がりを見せている。それは、どうんこ保育が自由保育の象徴的役割を果たしているからである。自由保育は、子どもの自主性・主体性を育み、自由に獲得し、子どもが自ら個性と能力を引き出す保育方法として確立されてきた。しかし、そのように子どもが自由に活動するためには、その前提として、抑圧からの解放が必要となる。今日の都市化社会において、子どもは多く、禁止と制限の中で育てられている。したがって子どもは抑圧を受け、萎縮し、自ら自身を持つていない個

性や能力を発現することができず、そこでまず、抑圧からの解放はどのようにしてよりよい方法が問われることになる。そこで、高く評価されるようになったのが、どうんこ保育である。

4. 保育文化とどうんこ絵本の役割

どうんこ遊びは、子どもが大変好きな遊びである。子どもが目を輝かせ、活き活きとした動きのある遊びである。この土と真摯な生活は、子どもらしい姿であり、子どもが独立した人格を持つ人間として、自立して生きることが証しである。自発性にもとづく主体的な活動であり、子どもが自己実現している幸福な状態である。子どもの人格が尊重されているというものはこの状態をさすといえる。子ども独自の文化である。保育所・幼稚園とは、このような子どもの人格表現としてのどうんこ遊びが出来る場所となるわけである。しかし、心配な傾向は、大人によって「きたる」から「だめ」「あつた」から「だめ」「みつともな」から「だめ」等々と、禁止されることである。子どもの人格を無視であり、大人の横暴である。そこで、大人と子どもの両者が共感できる場をつくらなければならない。それは、子どもにとっても楽しいもので、また同時に、大人にとっても楽しいものであるべきである。それは芸術の力をかりる以外にはない。大人の心の中に、子どもの思いを伝えた役目をも果たすものである。それが、保育文化としての「どうんこ絵本」である。芸術の力は偉大なもので、道徳感なく大人を童心の世界に引きもどしてくれる。そして、どうんこの童心の世界が共感できるものである。

自己中心期のアニミズムの世界に大人も入り、同じ精神世界で合意し、共に暮らすことが出来るのである。両者の共通理解の場として「どうんこ絵本」の役に立つのである。子どもが真摯に生きている姿に感動し、大人にも容易に共感できるからである。文化は、子どもと大人の時代差を越えて、かけはしの役割を持つてゐる。それ故に、どうんこ絵本を通して、子どもの世界を確立し、子どもが子どもとして、あひまびと生きたい世論を社会全体につくりたいのである。



図1. 絵本「どうんこ」14頁 / 絵本「どうんこ」15頁

5. どうん=絵本「どうん=」福音館を
中心に(参考図書一覧表9.1.)

なぜ、子どもはどうん=遊びをとりこに
なってしまうのか。どうん=の魅力は子ど
もに立場にたつてみるとよく理解できる。
第一に、気持ちいいのである。第二に、汚
れくさるものである。人間の持つ不思議な願
望である。きれいになりたいのと同時に汚
れた、思いきり汚れてみたいという願望であ
る。第三に、気楽さである。どうん=遊び
には、これという特別な技術やルールは
何もない。誰にでも気楽にできる。また、列々重要な
気楽さがある。それは、評価がないということである。
点数もつかないわけば、上手、下手もない。それ故に、
本当に自分にとって必要なことに熱中できるわけだか
ら、その魅力は大いである。第四に、カタルシス効果(浄
化作用)がある。今日の幼児は多様なストレスを受け
ている。その欲求不満をどうん=遊びは、誰にも傷つけ
ることはなく、優しく吐き出すことができる。

図1-絵本1. 気持ちがいいのである。

「どんべちゃ ぐちゃり
おなかに ヒパリ
どうん=ぶうは あったかり」

図1-絵本2. いろいろなイメージになり、遊びが
深まっていく。

「どうん=にたいの じょうりく
ときに みつかうのいように
そーと そーと」

図2-絵本3. どうん=遊びの極致である。心身と
ともに解放され、どうん=とけこしまう。

「どーろり どうろり
どうん= かうだが とけちゃった」

図3-絵本4. 本当にごきげんな笑顔である。今日
なかなかこの笑顔はみうけない。
どうん=なうでんの効果である。

「どうん= だりすき
だ、2 いいきもち
なんだもん」

6. 結論

どうん=遊びは、子どもが子どもらしく生活するこ
とであり、子どもの発達段階に合った遊びである。し

図2. 絵本3「どうん=」22頁/ 絵本4「どうん=」23頁



たが、この子どもが人格を認めた人間尊重の保育であ
る。それは、子どもにとって普遍的なものであり、確
かな存在として保障されなければならぬ。

次に、この保障としていくためにはどうしたうよいか
という点で、子どもが、保育者のみならず、子どもたち
の父母や地域一般の人々に理解されなければならぬ。
よこは、芸術作品として昇化した保育文化財「ど
うん=絵本」の役割がある。

『どうん= 絵本』の参考図書一覧表

15. ねつこぼつこ	14. み	13. じ	12. く	11. さ	10. どうん=こおぼけ	9. ママはもうおこつていない	8. ぶたのしあわせ	7. どうん=こぶた	6. どうん=こハリー	5. あなははるもの	4. あ	3. おなかのすくさんぼ	2. どうん=	1. どうん=
ジビュレ・フォン・オルファース	長谷川 撰子	長谷川 撰子	長崎 源之助	末吉 曉子	長崎 源之助	矢川 澄子	岸田 裕子	渡辺 茂男	谷川 俊太郎	片山 健	渡辺 茂男	長谷川 撰子	長谷川 撰子	長谷川 撰子
生野 幸吉	撰子	撰子	源之助	源之助	源之助	源之助	源之助	源之助	源之助	源之助	源之助	源之助	源之助	源之助
オルファース	撰子	撰子	源之助	源之助	源之助	源之助	源之助	源之助	源之助	源之助	源之助	源之助	源之助	源之助
ジビュレ・フォン・オルファース	撰子	撰子	源之助	源之助	源之助	源之助	源之助	源之助	源之助	源之助	源之助	源之助	源之助	源之助
英 伸三	英 伸三	英 伸三	梅田 俊作	梅田 俊作	梅田 俊作	梅田 俊作	梅田 俊作	梅田 俊作	梅田 俊作	梅田 俊作	梅田 俊作	梅田 俊作	梅田 俊作	梅田 俊作
福武書店	福武書店	福武書店	福武書店	福武書店	福武書店	福武書店	福武書店	福武書店	福武書店	福武書店	福武書店	福武書店	福武書店	福武書店
(月刊)かがくのとも	(月刊)かがくのとも	(月刊)かがくのとも	(月刊)かがくのとも	(月刊)かがくのとも	(月刊)かがくのとも	(月刊)かがくのとも	(月刊)かがくのとも	(月刊)かがくのとも	(月刊)かがくのとも	(月刊)かがくのとも	(月刊)かがくのとも	(月刊)かがくのとも	(月刊)かがくのとも	(月刊)かがくのとも
一五九号	一七六号	一四七号	一四七号	一四七号	一四七号	一四七号	一四七号	一四七号	一四七号	一四七号	一四七号	一四七号	一四七号	一四七号

【資料】堀川寿平「保育内容の研究」-どうん=保育の基礎理
論-日本仏教社会福祉学会年報18号、p.30, 1987-11-7